

藝文やまなし



平成19年3月号

Vol.16

CONTENTS

- ◆本年度の事業紹介…………… 2
- ◆県民文化祭への参加状況…………… 3
- ◆各受賞者の紹介…………… 4～5
- ◆部門の紹介…………… 6
- ◆総会・研修会のお知らせ…………… 7
- ◆いんふおめーしょん…………… 8



風土がはぐくむ香り豊かな文化

山梨県芸術文化協会会長 野口 英一



山梨の風土がはぐくむ文化に、どんなものがあるか少し考えてみたいと思います。山梨県芸術文化協会が大きな仕事として取り組んでいるやまなし県民文化祭、そこでの文芸発表活動、舞台や美術の発表・展示会といった純然たる文化的成果はもちろんですが、生活に根ざした食文化・生活文化による産物も忘れてはならない気がします。身近な一例を挙げれば「風土が生む美味」であるワインがあります。文学や美術、音楽にワインが結びついた作品は、古今東西に広く存在します。そのリラックス効果による精神のはばたきが、創作世界に与えた大きさもまた言うに及びません。

日本のワインづくりは、ここ山梨を本拠地にして、130年あまりの歴史があります。ワインを身近にするライフスタイルの変化は著しいものがあり、日本の食文化のなかで大きな柱を構成する存在にまで育っているのではないのでしょうか。山梨のワインづくりの歩みは、近現代の山梨が発展するうえで基幹産業を担った大きな存在でした。先人の努力によってこの地に芽吹き、20世紀100年間の激動の時代を乗り越えながら、21世紀にたどりついたのです。ワインは山梨の風土が生んだ文化なのです。ワインづくりは文化力、地域力のバロメーターでもあったと言えるでしょう。

こうしたなかで、山梨のワインづくりは、海外からの流入品の増加、農産物制度の変化、消費者需要の多様化など、従来から抱えていた産地課題に加え、地球温暖化にどう対応するか大きな岐路に立っていると聞きます。気象条件の変化によって、ワインに適したブドウの栽培が困難になるうとしていっているのです。従来通りのブドウ栽培やワインづくりを続けていたのでは、山梨は取り残されてしまうともいいます。既に一部のワインコンテストで、山梨産は気候冷涼な長野産に押され始めているのです。

風土が生んだ山梨の伝統産業が、その風土の変化によって脅かされる？ そんなことがあっていいわけがありません。50年、100年先を展望したとき、山梨のワインの明日が、確かに切り開かれると信じたいものです。風土から生まれた食文化は、風土をしっかりと見据えることで、持続可能なものになるのではないのでしょうか。温暖化の大波に水没するか否か―。業界をはじめ行政、研究機関、関連団体による総合的な取り組みが始まっているそうです。広く英知を集め、風土と文化を融合させることが将来へのカギになるのです。感受性を高め、将来戦略を固めていくことが重要なのです。

生活文化を守ることもアカデミックな芸術文化活動も、同じように風土に根ざしたものを大切にすることから出発するのだと感じます。ワインづくりが象徴している風土から醸し出された香り豊かな文化。高貴なる存在がこの地に長らえることの大切さをあらためて考えてみたいものです。県芸術文化協会の活動が、こうした英知のひとつになることができるよう、私たちも努力していこうではありませんか。



第6回やまなし県民文化祭への参加状況

総合舞台

3月4日(日) 県民文化ホール大ホール

創作舞台「風の中の^{のぎ}穎たち」～幻想と風景のイーハトーブ～

第3回やまなし県民文化祭の「奈良田物語」第4回の「異聞・甲斐湖水伝説」そして昨年第5回の「なまよみの国から」に続き、本県と関連のある題材をテーマとして創り上げられた舞台。

今回は韮崎出身の保阪嘉内と宮沢賢治との交流を取り上げ、二人の親交を絡めながら賢治の心象風景が音楽や踊りを交えて描き出された。

舞台部会各部門がそれぞれの活動、表現の枠を超えて力を結集し、総合舞台の名にふさわしい舞台を創り上げることが出来た。

各部門参加者は、厳しい日程の中それぞれの力を遺憾なく発揮し、来場者からの惜しみない拍手に笑顔で応えた。



総合展示

10月11日(水)から15日(日) 県民情報プラザ地下展示会場において「美の饗宴、やまなしの芸術家たち」と題し、展示部会各部門が参加。県内の指導的立場にある方々の作品106点を一堂に展示した。会場では恒例になった茶道部門による呈茶や邦楽部門による演奏も行われ、訪れた方々に優れた芸術文化の鑑賞と併せて心地よいひとときを提供することが出来た。

また、2月14日(水)から18日(日)まで行われた「合同展示」でも展示部会が中心となり運営を担った。

美の饗宴、やまなしの芸術家たち



部門別フェスティバル

8月の音楽部門を皮切りに発表・舞台・展示部会の各部門それぞれが、特色ある事業を実施し、県民文化祭を盛り上げた。



各受賞者の紹介

平成18年度に山梨県芸術文化協会の関係者で「県政功績」「山梨県文化賞」を受賞された方々を喜びの声とともにここに御紹介いたします。

県政功績

伝えたい衝動

日常生活の中で特別な体験等をしたとき、それを他人に伝えたい衝動にかられることが間々あります。クラシック音楽畑の私は日常生活の中で数々の名曲に接していますが、その美しさを独り占めにしておくのはもったいないことだと思いつくづつ感じています。それで、クラシック音楽の良さを多くの人に知ってほしいという「伝えたい衝動」にかられてこれまで演奏活動を続けてきました。県芸文協設立趣旨の一つに、県民に芸術文化の良さをあまねく知ってもらうために普及振興を計るとありますが、今回の受賞を機に、芸文協の会員として芸術文化活動の楽しさを知ったグループが県内一円に生まれ育っていくことを願い、そのための努力を続けていきたいと思っております。

小松 壽武



山梨県文化賞 文化功労者賞

山梨県文化賞文化功労者賞を受賞して

鶴田 信俊（一杏）

この度、図らずも山梨県文化功労者賞にご推挙を賜り、この榮譽に限りない驚きと共に感謝と感激に溢れる喜びの念で一杯でございます。

思えば私の主宰致します日本華道古流は華道600年の歴史の中にあつて、大正13年現流名による創立以来80有余年に亘って華道文化の振興と華道の伝統芸術の継承に努め、これを以て先代から引継ぎ40年の今日があり、併せて県内外の芸術文化諸団体に広く微力乍らの活動を致してまいりました。

もとよりこの事の背景には芸術文化諸団体のご支援、ご指導を多くの皆様より戴いた事に寄り今日があり、この賞に結び付いたものと受け留め、以て新たな活動のスタートと併せて本県芸術文化の発展に微力を傾注してまいる所存であります。



山梨県文化賞 奨励賞

山梨文化賞奨励賞をいただいて

三枝 亨（浩樹）

暮らしの中で甲斐のやまなみに目を向けることがあるせいだろうか。「甲斐が嶺めぐる甲府市の舞鶴城にほど近く…」という、春日小学校の校歌が下積みの記憶の中からひょこつとよみがえってくる。中学や高校の校歌は浮かんでくることなどないのに、折々によみがえってくるこの校歌。

人々の記憶の古層に沁みこんでひっそりと寄り添ってくるメロディーや歌詞。脈々と流れ続け、生き続けるもの。文化とはそういうものであろう。短歌は問わず語りの独り言のようでありながら、同時代の誰彼への問いであり、1300年前の歌人たちとの対話でもありうる。一歌人として、そのダイナミズムをこれからも大切にしたい。

この度は山梨文化賞奨励賞をいただきましたこと、厚くお礼申します。



山梨県文化賞 奨励賞

自分に課すもの

堀内 洋子

この度「山梨県文化奨励賞」を頂きましたことは、私にとりまして大変な驚きです。

夢中で走り続け、まだまだこれからと思っていた矢先、このような評価を頂き、戸惑いと共に、重みはずっしりと申し掛かりました。

今、ここで「何かしなければ…」と意気込み、構えるのではなく、立派に仕事をされる方々から教えを頂きながら、道を途切らせぬよう後に継ぐ努力をすることが大きな課題と真摯に受け止めております。

お支え下さいました方々への感謝の気持ちを忘れずに精進致したく思います。



山梨県文化賞 奨励賞

県文化賞 奨励賞をいただいて

秦 洋彦（硯堂）

この度の受賞は、身に余る光栄と深く感謝申し上げます。

当初は諸先輩や同好の志からのあたたかい励ましのお陰で続けて来た書道活動でしたが、いつの間にか50余年が過ぎてしまいました。

近年になって「書は一回性の芸術」という亡き師の言葉の意味を改めて身近に感じられるようになり、書作の一枚一枚が違った表情を持ち、同じものは二つと書けないことに尽せぬ魅力を実感できるようになりました。

これからは、書に携わる多くの仲間達との交流を通じ、若い力を育てることに微力を尽したいと思っております。

ありがとうございました。



山梨県文化賞 奨励賞

山梨県文化賞奨励賞を受賞して

深澤 はるみ (一黄)

この度は、山梨県文化賞奨励賞を賜り、身に余る光栄と思っております。これも偏に山梨県華道協会会長様始め諸先生方のご推薦に依るものと、心より御礼申し上げます。

顧みますと、昭和28年入門以来今日迄華道を持続できました事は、導いていただいた先生、多くの友人、そして家族の助力が大であったと有難く感謝致しております。

お花の持つ素朴な美しさに惹かれ、自然を愛し、この優しさを世の総てに還元してゆきたいと思えます。初心に帰り自己の研鑽を積みつつ後進の指導に当る所存です。微力ながら山梨県の芸術文化活動に携ってゆきたいと思っております。受賞に当り、お世話になりました方々には心より御礼申し上げます。この後もご指導の程お願い申し上げます。



山梨県文化賞 奨励賞

尺八に魅せられて60年

矢野 欽士 (逸川)

中学生の頃から吹き始め、73歳のこの歳まで尺八と付き合いましたが、尺八の音に救われたこと、慰められたこと、感動したこと…思えば尺八によって私の人生がどれだけ豊かになったことか、ただ感謝です。

また、この度は思いがけず県文化賞奨励賞を受賞しましたが、邦楽関係その他多くの方々のおかげであり心よりお礼を申し上げます。

私がこのように永いこと尺八から離れられないのは、世界中の音楽に接する機会の多い今の世にあっても、日本の古典音楽の素晴らしさ、その魅力の凄さにあると思えますが、いまだに新しい発見があったり、曲の好みも変わり続けています。

今感じる事が若い時に感じられなかったのは残念ですが、まだまだこれから面白くなりそうです。



山梨県文化賞 奨励賞

文化賞奨励賞を受賞して

若月 和郎

過日栄えある文化賞奨励賞を18年11月15日にベルクラシック甲府の2階オリヴィアの間に於て県の方々をはじめ各部門の代表の方々、当然民謡民舞部門の矢野部門長や多数の来賓の列席する中で厳粛の中にも和やかな表彰式でありました。

思い起せば私が民謡の世界に入ってから既に30年を超えた年月が経ち、その間、財団法人日本民謡協会の山梨県長野県連合会の委員長、北関東甲信越大会の副委員長として、更に2000年を境にして新しい山梨県芸術文化協会の誕生と共に初代民謡民舞部門長として古来から伝承されて来ている尊い日本の文化を後世に伝えていく為の努力をして参ることが出来たのも多数の会員の皆様方の御支持と御協力によるものと深く感謝いたして居ります。

今後益々精進いたし新しい文化の発展に尽力いたす覚悟ですので、より一層の御指導をお願いいたします。



山梨県文化賞 奨励賞

受賞を機に

河野 司

このたびは思いがけず大変栄誉ある賞を賜り、日にちが経つごとに改めてその重さがひしひしと身にしみております。

この受賞は、私個人ではなく、これまで共に朗読活動に携わってこられた皆様、私の活動を見守り、励まし、育ててくださった皆様総てを代表して戴いたものです。改めてそれらの皆様方に心から御礼を申し上げます。

「朗読」は、芸術界ではまだ日の浅い分野であり、県内はもとより全国的にも急速にその裾野が広がっているが、未解明・未開拓の部分が多く、現在まさに発展途上にあると言えます。

今回の受賞を機にいつそう精進を重ね、自らの力量を向上させるとともに、県内での朗読活動の定着・発展のため微力ではありますが、いつそう心をこめて尽力して参りたいと思っております。

今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



山梨県文化賞 奨励賞

県文化賞奨励賞を受賞して

樋口 正子

この度は栄誉ある山梨県文化賞奨励賞を頂戴し、身に余る光栄と心から感謝申し上げます。

思えば叔父、華道家安達一要の内弟子となり、修行の道に就いたのが幸運とでもいえましょう。

元来、手作りに対する興味を持つ私は、ハンドクラフト、特にアートフラワーの愉しさと日本の伝統芸術の美、華道・盆栽を合わせて表現できないかと思ひ、東京まで師を尋ね研鑽を重ねて参りました。

平成13年山梨県芸術文化協会において「ハンドクラフト部門」の設立をお認め頂き、工芸盆栽もその一つとして出展することが出来ました。ハンドクラフト部は、工芸盆栽ばかりでなく幅広い分野の方々との交流が出来ます事は大変な事でございます。

このご恩を芸術文化発展に微力ながらお役に立てばと心に強く思う次第でございます。



ひたむきに 前向きに

洋舞部門長 中村 元子

芸術文化協会洋舞部門に所属している団体は7団体。主な活動としては、「やまなし県民文化祭部門別フェスティバル」「総合舞台」「県民オペラ」への出演、生涯学習活動への講師派遣等々。

個々にスタジオを主宰している先生方が部門活動に参加しており、個人会員はいません。

部門の活動を実践していくに当たり、一番の悩みは、なんと言っても運営面。もっと多くの会員の入会を望んでいるのですが、なかなか活動の意義を理解していただけず、残念に思います。

活動の柱とも言える「やまなし県民文化祭」においても、経済的な理由で敬遠されてしまい会員が増えない一つの要因となっています。逆に、このような点を解消するためにも、多くのバレエの指導に携わる方々のご理解をいただき、入会を望むところです。

部門活動を通して、個々の団体で活動している多くの仲間が、同じ舞台を共有し、切磋琢磨しお互いを高め合い、芸術的水準を上げるべく、みな真剣に取り組んでいます。と同時に、常に心している点は、少しでも多くの方々が洋舞の素晴らしさに触れ、舞台（洋舞）に関心を持っていただきたいという熱意を忘れないこと、また、集客に力を注ぎ、そのための努力を怠らないことです。いくら素晴らしい舞台を創ったところで、観客が少ないようでは全ての努力は無となるからです。こうした会員の取り組みの結果、これまでに洋舞部門が出演してきた舞台においては、その都度、集客数は平均1,500人を確保しています。

このような、一致団結した行動が取れるのは、部門としての活動を考えるとき、会員一人ひとりが個人の考えを総合的に生かす協調性、県の芸術分野を高めていこうという信念、それに個々の欲を捨て、仲間意識を持って前向きに進んでいこうという心があればこそと感じています。

これは、長い間に培われた諸先輩、先生方の努力の賜に他ならないと感じています。これからもこの積み重ねを忘れず協力し、努力し続けると同時に、若い会員にも、もっともっと洋舞の素晴らしさを多くの人たちに知っていただく活動に関心を示して欲しいと願っています。



総会・会員研修会のお知らせ

日時 4月28日(土) 午後1時～
場所 かいてらす (山梨県地場産業センター)
大会議室
甲府市東光寺3-13-25
Tel 055-237-1641

総会 ・平成18年度
事業及び決算について
・平成19年度
事業及び決算について

会員研修会

今回は、太神楽師(だいかぐらし)として活躍されている鏡味仙三さんを招いての講演会を開催します。

演題は「太神楽界の若い力 ～故郷への思い～」です。

多くの会員の皆様のご来場をお待ちしています。

～「太神楽」とは…～

およそ400年以上の歴史を持つ、日本を代表する伝統芸能の一つ。東京都指定無形民俗文化財。「太神楽」という名称は、「代神楽」に由来すると言われる。伊勢・熱田神宮の神官が、神の「代わり」として全国各地に出向き、獅子舞によるお祓(はら)いを行った。その獅子舞の余興として、曲芸、掛け合い茶番(漫才のような話芸)、お囃子(祭り囃子)などを披露するようになり、これがのちに、「太神楽」として各地に根付くことになる。現在、寄席・舞台には欠かせない「エンターテイメント(演芸)」へと発展した。



【講師：鏡味仙三先生 プロフィール】

鏡味仙三(かがみせんざ) [太神楽師]

昭和50年甲府市生まれ。

甲府一高在学中、高等学校総合文化祭関東大会(演劇部門)にて3位入賞。

甲府演劇集団(現:劇団演集)に在籍し、山梨演劇協会合同公演「エリアンの手記」に出演。

平成10年國學院大學を経て、第二期国立劇場太神楽研修生となる。

平成13年太神楽研修修了、鏡味仙三郎に入門。

平成15年時代劇ドラマ「夜桜お染」(フジテレビ)レギュラー出演。

平成18年「平成17年度国立演芸場 花形演芸大賞『金賞』」受賞。

～主な過去の出演～

新宿末広亭、浅草演芸ホール、上野鈴本演芸場、池袋演芸場 [通年]、

『ともちゃん家の5時』ゲスト出演 山梨放送、『衛星演芸特選～太神楽と木遣り・江戸の風景～』NHK衛星第二、

『王様のランチ』ゲスト出演 TBS、

『仙三まつり』甲府市総合市民会館、『仙三の笑劇場』桜座、『神田祭 江戸開府400年祭～』神田明神、『川崎大師

～奉納演芸会～』川崎大師、『寄席芸能公演(文化庁本物の舞台芸術体験事業)』東北・北海道、『太神楽曲芸協会

海外公演(国際芸術交流支援事業)』タイ・カンボジア



◇問い合わせ先 山梨県芸術文化協会事務局(県生涯学習文化課内)
Tel 055-223-1797 Fax 055-223-1322

いんぷおめーしょん 会員活動紹介

写真部門

第6回山梨県写真団体連絡協議会合同展

会期 平成19年6月3日(日)～6月9日(土)
3日は正午から 9日は午後3時まで
会場 山梨県立美術館県民ギャラリーA
内容 加盟35クラブから150点の自由作品を展示

第30回フォトクラブリターン

会期 平成19年7月22日(日)～7月28日(土)
会場 山梨県立美術館県民ギャラリーB
内容 会員17名の自由作品70点を展示

第24回山梨ハッセルブラッドフォトクラブ

会期 平成19年8月25日(土)～8月31日(金)
会場 山梨県立美術館県民ギャラリー
内容 会員10名の自由作品60点を展示

演劇部門

劇団創作座創作劇

公演名 メゾン中央 1F
日時 平成19年6月10日(日)
会場 県立文学館講堂

音楽部門

山梨交響楽団 第34回定期演奏会

日時 平成19年6月24日(日) 午後2時開演
会場 山梨県民文化ホール・大ホール
指揮 江上孝則
曲目 ラヴェル/古風なメヌエット
ブラームス/交響曲第3番 へ長調 op.90 他
入場料 一般1500円 学生1000円

神宮寺淑子リサイタル

「日本の調べに寄せて」
日時 平成19年6月23日(土)
会場 県民文化ホール・小ホール
入場料 3,000円

吟剣詩舞部門

山梨県吟剣詩舞道総連盟

第57回全国吟剣詩舞コンクール山梨県大会

日時 平成19年4月22日(日)・5月20日(日) 午前10時開始
会場 山梨県立文学館講堂
内容 4月22日・合吟、連吟、独吟(一般二部)
5月20日・剣舞、詩舞、独吟(幼少青一般)

山梨県詩吟剣詩舞総連盟

創立60周年チャリティ記念大会

日時 平成19年5月20日(日) 午前10時開演
会場 甲府市総合市民会館 芸術ホール
内容 第1部 合吟、独吟、詩舞、会長推薦吟
第2部 構成吟「戦国の風林火山」
入場無料

華道部門

第17回山梨県華道協会展

会期 平成19年4月13日(金)～18日(水)
会場 甲府岡島百貨店7階特設催事場 ※三次展
開幕式 4月13日(金) 午前10時 華道展会場

平成19年度山梨県華道協会定例総会・会員祝賀会

日時 平成19年4月15日(日)
総会：午前11時～ 祝賀会：正午～
会場 岡島ローヤル会館 8階 コールド・ルーム

洋舞部門

ユミクラシックバレエスタジオ第12回発表会

日時 平成19年7月14日(土) 午後3時半開演
会場 県民文化ホール・大ホール
入場料 3,000円(全席自由)
演目 ‘ピーターパン」「ラ・バヤデル」影の王国より
新作 ポルトガル芸術監督メットバルカン振付他
出演 遅沢祐介 今井智也 三木雄馬

第28回三井京子バレエ研究所発表会

日時 平成19年6月10日(日)
午後1時～と午後4時～の2回公演

会場 山梨県民文化ホール・小ホール
演目 小品集/バレエコンサート/くすみ割り人形第2幕

中村元子バレエスタジオ勉強会「Study パフォーマンス」

日時 平成19年7月21日(土) 午後1時開演
会場 県民文化ホール・小ホール

合唱部門

山梨県合唱連盟定期総会

日時 平成19年4月15日(日)
会場 桃源文化会館

第47回山梨県合唱祭

日時 平成19年6月16日(土)・17日(日)
会場 都留市文化ホール

第62回全日本合唱コンクール山梨県大会

日時 平成19年9月1日(土)・2日(日)
会場 東京エレクトロン韮崎文化ホール

美術部門

70周年記念 山梨美術協会展

日時 平成19年7月11日(水)～21日(土) ※17日(火)は休館
会場 山梨県立美術館県民ギャラリーA・B・C
※作品応募したい方は油彩100号以内、他領域もこれに準ずる。搬入受付7月8日(日)午前10時～午後4時 搬入口
問い合わせ：事務局 055-251-2950 窪田正昭

第61回青樹展

日時 平成19年8月12日(日)～17日(金)
会場 山梨県立美術館県民ギャラリーA・B
内容 会員16名による油彩画大作30点余、小品16点を展示

■表紙題字 金井 昭堂(芸術文化協会参与)

ホームページイベント情報募集

ホームページに掲載するイベント情報を随時募集しています。

藝文やまなし表紙募集

藝文やまなし Vol.17 の表紙を募集しています。ふるってご応募ください。

■事務局 山梨県企画部県民室 生涯学習文化課内
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL 055-223-1797 FAX 055-223-1322
http://yamanashi-geibun.net e-mail info@yamanashi-geibun.net